

脚本部門で最優秀賞

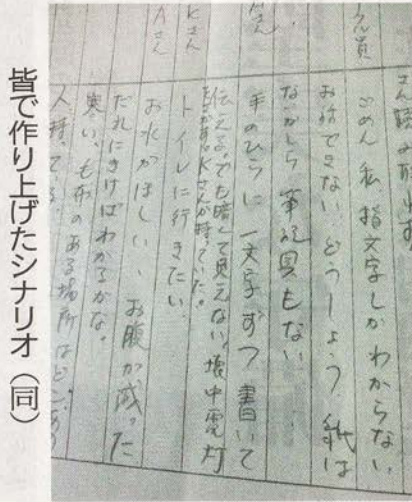
豊橋・さくらピア 「避難所体験」 障害者らシナリオ制作

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」が昨年9月に行った「避難所体験」で、障害当事者や近隣住民らが一緒に制作した防災ラジオドラマのシナリオ「障がい者が避難所に来たら」が、防災科学技術研究所主催の防災コンテスト「防災ラジオドラマコンテスト」脚本部門で最優秀賞に輝いた。今月14日に仙台市で開かれる国連防災世界会議の関連イベントで表彰される。

(田中博子)



シナリオづくりに取り組む避難訓練体験参加者—さくらピアで(同館提供)



皆で作りに上げたシナリオ(同)

さくらピアでは毎年、「避難所体験」福祉関係者、近隣住民らが避難訓練や宿泊体験などを行い、避難生活を検証するもので、「第18回防災まちづくり大賞総務大臣賞」「防災功労者内閣総理大臣表彰」も受けている。毎回、多彩な取り組みに挑戦している

が、シナリオ制作は初の試み。午前2時、豊橋に震度6の大地震が発生し、ライフラインがストップしたとの想定で、参加者61人が身体、聴覚、知的、視覚、車イス利用など、障害別の7班に分かれ、避難所に地域住民が集まる場面を描写した。当事者の立場から起こるかもしれない問題点や会話を想像し、1時間かけてそれぞれ1場面を書き

上げた。「活発に意見を交わし、皆熱心に取り組んだ。中身は未熟だが、当事者目線のリアリティーのある

ところが評価されたのでは」と本田栄子・同館事務長。シナリオを書いたことで、当事者が起こりうる問題を想定できたことは、今後の心構えにもつながるのでは」とも話す。シナリオは同館HPに掲載されている。「ぜひ、防災研修などに役立ててほしい」と、本田事務長は活用を呼び掛ける。